Dr.ASHER DERMANの生き方

アッシャー・ダーマン博士
Asher Derman

春日井教育センタービルの1階には、アッシャー・ダーマンの遺した書籍、文献が並んで本棚に納まっている。環境の本を始め、歴史、アート、学術研究誌、会報と幅広く集められて，かってはニュージャージの自宅に並んでいたものの一部である。ニューヨークの有名な古本屋のストランドでは、全て1冊1ドルで買い取られると聞いているが、そこに提供されることもなく、又、それらを座右に置く親しい人もないので、海を渡って日本に移住してきた書籍達である。残された書物から持ち主を思い描き生前の人物像を懐かしむことが出来るのはその人と語るような楽しみである。

生前最後に会ったのはマンハッタン、西のダウンタウンのコーヒーショップで、そこから9番街の歩道を、正面に沈みつつある夕陽に向かってバスターミナル迄、お互いに過ぎた人生を語り合いながら歩いたのが今でも鮮やかに心によみがえる。肺がんという病魔は、半年という時の経過でこの世からあの世への移行をアッシャー・ダーマンに強制したが、それは、普段嘆いていたマンハッタンの空気の汚れを実証したものであったと思う。

1997年に、最初の地球環境グリーンセミナを開催した時に講師として来日し、汚れ行く空気の都市ニューヨークに対しても、愛情あふれる心情を吐露した講話は、暖かく聴衆の胸にひびいた。大学教授で、環境建築家、そしてアーチスト。アッシャーは地球環境保護を唱える一方の旗頭で、静かなる男の魅力で存在感があった。ニューヨークのFour Times Square、シーザー・ペリのBattery Park のアパートメントの建設では、環境コンサルタントとして参画していた。

地球環境セミナの広島講演の折、単独に広島市役所を訪問し、手渡しで、副市長に自身の講演料全てを寄付した事実に、ユダヤ系アメリカ人の強い信念を見た。その浄財は広島平和公園のベンチの背に名前が刻まれて平和への祈りを人々と共に唱えている。地球環境保護は一人一人の責任ある行動にあると説く姿は、永遠の解決を将来に投げかける巡礼者に似たすがすがしさを見せていた。PESが業務遂行の中に、地球環境保護を標榜して、その実現に寄与しようと努力し続けることが出来ているのも、アッシャーの励ましの声が遠くから聞こえるからである。「イシグロ」とラストネームで呼ばれ、アッツシャーと呼び合う関係はアメリカでは、珍しい親しさであり、終生の友情の証である。豊かな知識と、教育者としての純真な心での行動は、ともすれば
実利に走る人生を優しくいさめてくれる指針になっている。

Environmental problems "are the result of
my behavior, not the result of nature. So
when we say there are environmental problem`s,
there are no environmental problems.
I am the problem. We are the problem."

Dr.Asher Derman

我々はこれまでずっと、クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を地球の自然体系から恩恵を受け取ることに頼ってきました。今日、それらの自然体系の活力が問題になっています。自然体系の活力の低下は、しばしば、自然環境がなんらかの環境問題、つまり、大気汚染や水質汚染、地球温暖化、種の絶滅、特異な生物相の劣化など、の影響を受けた結果であるとされています。

しかしながら、現実には環境問題など存在しないのです。その代わり、実際に存在するのは人間の営みの問題です。あなたがた、そして私が問題なのです。